

特装車の防錆対策について!!

❄️❄️ 『沿岸部及び冬に凍結防止剤が散布された道路を走行する車両の防錆対策について』 ❄️❄️

錆びによる特装車の経年劣化について

お客様に、特装車を安全かつ適正な状態でご使用して頂くため、一般社団法人 日本自動車車体工業会では点検促進ポスター及びメンテナンスニュースにて、ご案内 (PR) を行ってまいりました。

特装車を長く安全にご使用して頂くために定期点検に加え「メーカー推奨点検」を実施致しましょう。

特にクレーン車及び高所作業車等は労働安全衛生法により有資格者による1年毎の特定自主検査 (年次検査) を実施して頂くことに加え、日常の車両整備が義務付けられています。

ここに日常点検・整備の必要性についてご案内申し上げます。

錆び防止対策のチェックポイント! (参考)

- メーカーの取り扱い説明書に従い、車両の指定個所に指定の油脂類を給脂または交換を行ってください。
- 各部の洗浄・掃除を行ってください。
特に沿岸部で使用されている車両及び冬に凍結防止剤が散布された道路を走行する機会の多い車両は塩分により車両に錆びが発生しやすくなります。
◆ 塩分を含む水が車両にかかった場合及び凍結防止剤が撒かれた道路を走行した場合は必ず定期的に (特に春先) 十分な洗浄をお願いいたします。
錆びは車両の外観を損なうばかりでなく、進行する事で車両の電気系統 (配線等) が腐食しトラブルの原因となるばかりか構造部の材料が薄くなり、強度が低下すると共に車両の破損や事故につながる恐れがあります。
- 防錆塗装について。
防錆塗料は、新車の時に塗布するもの、一旦錆びがでてしまった後に塗布するものもありますが、さまざまな防錆塗料が各メーカーから販売されています。
防錆塗料は新車の時にすることをお勧めいたしますが、塗料の選択につきましては各メーカーにお問い合わせください。

※ 以下の写真は、沿岸部で約11年使用した車両ですが、適切なメンテナンスを行わなかったために錆びが進行しシャシフレームやブーム本体の板厚が当初の板厚より3割近く減少してしまったために強度的にも影響がでています。

≪錆びは適切な給脂と車両の洗浄及び塗装で防ぐ事ができます≫

(クレーン分科会提供)



※道路運送車両法 (第47条の2) 日常 (運行前) 点検・ (第48条) 定期点検は使用者・運行する者に義務付けられています。

 正しいメンテナンスで機械も体も健康体 

なぜ点検整備・部品交換をするのか？

近年、家電製品において製品の経年劣化が主因となる重大な事故が発生し市場出荷後の製品につき経年劣化による事故を未然に防止するための措置として長期使用製品安全点検制度が設けられました。

このことより点検義務づけや点検結果必要と見込まれる部品の保有期間等を明確にし記載することになっており各メーカーで自主基準を定めております。

※家電メーカーは通商産業省の行政指導によって、製品機能を維持するために必要な部品の保有期間「補修用性能部品の最低保有期間」を定めています。

日本自動車車体工業会に於いても特装車両の使用期間長期化に伴い定期的な点検整備および部品交換の促進として特装車メンテナンスニュースを発行しPR活動を行っております。

また経年品質保障に関する取組(定期点検時の部品交換時期・使用限度の明確化等)や環境への取組として環境負荷物質フリー化にも取り組んでおります。

「特装車」を安全に末永くご使用して頂くためには「正しい取り扱い」は勿論ですが「日常の手入れと定期的な点検整備と部品交換」をする事が大切です。

定期部品交換・点検整備で安心



純正部品使用でさらに安心



日常点検・定期点検整備を怠ると

こんな事になる！



シャシフレーム・サブフレーム腐食



シリンダロッドの錆び



配線・カプラ錆び・腐食



油圧ホースかしめ部腐食



凍結防止剤侵入による錆び

点検・整備前には洗浄！

日常点検・点検整備前には必ず洗浄を行ってください。特に凍結防止剤を散布する地域で使用している車両はシャシ・架装部の錆びの原因となります。

※電装品は高压洗浄禁止



予防措置

- ①油圧シリンダのロッド部に防錆油またはグリスを塗布して下さい。
- ②長期保管中は月に1度エンジンを掛け作動確認を行い潤滑部の油膜切れを防いで下さい。

*防錆油またはグリスを塗布！
(注)モリブデン系は禁止



日常検査時にブーム摺動部の点検とグリス塗布を行う

- ①ブーム損傷やスライドプレートの磨耗量の点検を行ってください。
- ②ブーム下面や側面の摺動部にグリスを塗布して下さい。
- ③摺動部にゴミが噛みこむと、早く摩擦します。ゴミが付着している場合は清掃してから給脂して下さい。



*長期間車両を使用しなかった場合、油圧シリンダの油膜が無くなり、シリンダロッドに錆びが発生し油漏れの原因となります。

【給脂箇所は各メーカー推奨の油脂・グリスをご使用願います】

*詳細は各メーカーの取り扱い説明書に基づき実施して下さい。

*定期交換は、専門的な技術と設備のある各メーカー指定サービス工場でお受けいたします。